

## 植樹のつどい

猛暑も収まりようやく涼しくなり始めた9月11日、新見市大佐で開催された「森と海をつなぐ植樹のつどい」に参加しました。岡山県漁業士会と新見市森林組合、新見市の共催により県下沿岸の漁業関係者や新見市林業関係者総勢約50名でヤマザクラ、ヤマモミジ、ブナの苗木260本を新見市大佐地域の約2,000㎡に植樹を行いました。当地での植樹は平成27年度に始まり、今回で3回目となります。今までに約5,000㎡の範囲に860本の広葉樹を植樹しました。この活動は、瀬戸内海の海の幸に栄養をもたらす原点ともいえる森林を育て、海の環境改善につなげることに加え、この活動を通じて山間部地域社会との交流を図ることを目的に岡山県漁業士会が中心となって行っています。この植樹、下草刈りの活動は平成16年度から県下各地で毎年行われています。

新見市とは、平成27年度に「森と海をつなぐ魚島の森 大佐山」森づくり協定を結び、新見市森林組合、林業関係者の協力を得て協働で進めています。

また、岡山県漁業士会では岡山県から「岡山県二酸化炭素森林吸収強化制度」の認定を受けており、地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出量削減のための取組も行っています。

植樹をするには、現場の整地、苗木の準備、鍬やヘルメット等の資材や熱中症対策の飲み物の準備、後片付けなどが必要で、関係者の方々の並々ならぬ尽力と、日生から笠岡まで県下沿岸域から集まった漁業者の方々の熱意に、頭の下がる思いでありました。加えて、植樹の後の数年間は苗木の生長を促進するために下草刈りを行うなど管理が必要で、森林を育むことの大変さを再認識しました。

植樹をした苗木がすくすく生長して立派な樹木となり、森林が次世代に引き継がれることで良質で豊かな水の供給源となることを祈っています。



植樹する参加者



集合写真

(水圏環境室：古村)